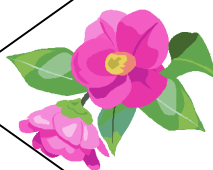




LIBRARY NEWS

2012年2月
本庄第一高等学校図書館



新しい本がたくさん入りました!!



『TPP 亡国論』 中野剛史

アメリカの仕掛けた畏に日本は又はまるのか?! 国益を考えた真に戦略的な経済外交とは。

『未来を切り拓く! 数学は「働く力」』 高濱正伸

TVでも話題のカリスマ塾講師高濱先生の特別授業。数学力は逆境を生き抜く力の基礎。

『舟を編む』 三浦しをん

個性的な編集者たちが新しい辞書『大渡海』編纂に取り組む。本屋大賞ノミネート作品。

『人質の朗読会』 小川洋子

囚われの身となった人々が、遠く隔絶された場所で語る物語。本屋大賞ノミネート作品。

『プロフェッショナルの条件—いかに成果をあげ成長するか』 P.F. ドラッカー

どうすれば一流の仕事ができるか。ドラッカーの教える知的生産性向上と自己実現の秘訣。

『TOEIC テスト 280 点だった私が半年で 800 点、3 年で同時通訳者になれた 4 2 のルール』 小熊 弥生

3つのバイトを掛け持ちしながら英語を習得。同時通訳者が伝授する、超スピード学習法。

『まゆみのマーチ—自選短編集・女子編』 重松清

著者自身が選んだ短編集。特別収録された新作「また次の春へ」を響生の時間に朗読。

今月の作家



レイチェル・ルイーズ・カーソン (Rachel Louise Carson)

1907年・1964年 アメリカ合衆国のペンシルベニア州に生まれ、1960年代に環境問題を告発した生物学者。アメリカ内務省魚類野生生物局の水産生物学者として自然科学を研究した。農業で利用されている化学物質の危険性を取り上げた著書『沈黙の春』(Silent Spring)は、アメリカにおいて半年間で50万部も売り上げ、後のアースディや1972年の国連人間

環境会議のきっかけとなり、人類史上において、環境問題そのものに人々の目を向けさせ、環境保護運動の嚆矢となった。

今月の開館日・図書当番

1日(水) 2-2 2-8	2日(木) 2-3 2-9	3日(金) 2-4 2-10
6日(月) 2-5 2-11	7日(火) 2-6 2-12	8日(水) 2-7 2-13
9日(木) 2-14 2-15	10日(金) 1-8 1-1	13日(月) 1-9 1-2
14日(火) 1-10 1-3	15日(水) 1-11 1-4	16日(木) 1-12 1-5
20日(月) 1-13 1-6	21日(火) 1-14・15	1-7
22日(水) 2-8 2-1	23日(木) 2-9 2-2	27日(月) 2-10 2-3
28日(火) 2-11 2-4	29日(水) 2-12 2-5	

☆3年生は図書を至急返却してください!☆

芥川賞

えんじょう とう
円城 塔



どうけし ちょう
『道化師の蝶』

無活用ラテン語で記された小説『猫の下で読むに限る』。希代の多言語作家「友幸友幸」と、資産家A・A・エイブラムスの、言語をめぐって連環してゆく物語。SF、前衛、ユーモア、諧謔…すべての要素を持ちつつ、常に新しい文章の可能性を追いかけ続ける著者の新たな地平。

たなか しんや
田中 慎弥



ともぐ
『共喰い』

17歳の「篠垣遠馬」は愛する女性にさえ手をかける父「円」を憎んでいた。暴力的な父に対して強い嫌悪感を抱く一方で、自分自身にも流れる父と同じ「血」の存在に気づき、父によく似た自分を描く壮絶な物語。作者はパソコンも携帯電話も持たず、原稿執筆は鉛筆での手書き。これまでにアルバイトを含め職に就いた経験は一切ない。

直木賞

はむろ りん
葉室 麟



ひぐらしの き
『蝸ノ記』

過酷な運命を受け入れ、藩史編さんに打ち込む武士の姿を季節の移ろいとともに描く。命を区切られた男の気高く凄絶な覚悟を穏やかな山間の風景の中に謳い上げる、

感涙の時代小説。図書館に入ります。

今回の芥川賞・直木賞は男性のみ3名の受賞となりました。加えて、受賞者のインタビュー会見での言動や、それに伴う審査員の辞任などたいへん話題になり、著作本はベストセラーになっています。3名とも各賞のノミネートは複数回、これまでも各種文学賞を受賞しているなど、実績・実力のある作家たちです。

芥川賞2作品全文が掲載される雑誌『文藝春秋 3月号』が近々図書館に入ります。

「本が好き」図書館ブログ <http://blog.goo.ne.jp/library1789/>

